

## 第一部

## Ⅲ わたしの契約を守るなら

出エジプト 19：5～9、6：2～8

### はじめに

今回は、創造主の世界救済計画とイスラエルについて述べた。ここでは契約と贖いについて基本的なことを申し上げる。

多くの場合クリスチャンはこの大切な教理について聴くことがまれであり、聖書の深みと主なる神の大きな愛を表面的にしか味わえないのである。

### 1. 「わたし(創造主)の契約」(5 節) とは何か

#### (1) 「契約」のことば

契約はヘブル語のベリースという語源からきているとする説をはじめ、他の古代語に起源を求めるなどの諸説がある。我々は、旧約テキストをもとに契約の論理を進めたい。このことばは、元来宗教的意味を持たない世俗的な生活の領域で使われていた用語であったが、主なる神ヤハウェとイスラエルとの関係を示すために、神の摂理によって取り入れられたのである。

#### (2) 「契約」の定義とことばの意味

神の契約とは「主権的に与えられた血による結びつき」である。

- ① 旧約聖書で「契約」(ベリート)という言葉が用いられているコンテキスト(文脈)には、常に「結びつき」という概念が存在する。それは、契約の双方の当事者は常に人格的存在であり、それは神と人との係わりにおいてである。
- ② 神と人との契約を正式なものとする必須の要素としてことばによる宣明が行われる。つまり、契約によって生じる結びつきの本質を言葉にして表すのである。  
神がめぐみ深い言葉を発することによって、造られた者との関係を鮮明にするのである。(創世記 17：1～2)。
- ③ 人と人を互いに結びつける契約において誓約のかたちはことばによる他、象徴的な行動がある。贈り物をする(創世記 21：28～32)、食事を共にする(創 26：28～30)、記念碑を建てる(創 31：44～)、血を振りかける(出エジプト 24：8)、いけにえをささげる(詩篇 50：5)、動物を裂く(創 15：10、17)。  
旧約聖書の契約を結ぶ表現に「契約を切る」と数多く言われているのは、正式な表現と言える。「切る」という生々しい表現は、「契約は、まさにいけにえを切り裂いて流す、「血による結びつき」であり、「いのちと死に関わる結びつき」を言い表しているのである。
- ④ 「血による結びつき」という表現の新約聖書との関連を見る。「律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません」(ヘブル 9：22)。

### 2. 「あがない」について

#### (1) 贖いと契約の関係 (出エジプト 6：5～8)

出エジプト記は神とイスラエルの民との契約が記された書であると同時に、イスラエルの民の贖いの書でもある。旧約聖書に用いられている贖いを表すヘブル語は、ガーアルである。この言葉は、創世記 48 : 16 を除いてここに初めて使用されている。このことは「贖い」の思想が出エジプトの事件を契機としてイスラエルの民に導入されたことを意味する。さらに、旧新約聖書全体を貫いて流れている神の民の贖いの思想が、出エジプトの事件とシナイ契約に深く根差していることを表している。

## (2) 贖いの定義とことばの意味

ガーアル「贖う」というヘブル語は、  
**「失われたものを代価を払って取り戻す」ということを意味する。**

### ① 旧約の贖いは新約の贖いの土台

アブラハム、イサク、ヤコブとの契約によって神の民とされたイスラエルを、エジプトの下に奴隷として束縛されている状態から、神が代価を支払って取り戻してくださる。買戻しのために買戻しの代価として〈さばき〉が伴うのである。それは十の災害であり、特別に過ぎ越しの出来事であった（出エジプト 7 : 14～12 : 30）。そこで支払われた贖いの代価は子羊の血であり、それはイエス・キリストの血潮を指し示す予表であった。次の項で述べる新約における贖いは、モーセ、ダビデとの契約を土台としているのである。そして、イエス・キリストが、弟子たちと結ばれた契約へと続くのである。

### ② 新約の贖いはキリストの再臨において完成

アブラハム、モーセ、ダビデ契約を土台としつつ、さらにアブラハム契約にさかのぼって、アダムによって失われたものが、イエス・キリストの贖いによって買戻されることである。そしてこの場合にも買戻しのために買戻しの代価として〈さばき〉が伴うのである。新約におけるさばきとは、キリストを信じないで滅びの中に入れられることである。その究極的实现はキリストの再臨において完成することも、合わせて申し上げる。新約の〈さばき〉についての聖句を一か所引用し、それ以外は引用個所を記す。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである」（ヨハネ 3 : 16～19）。

## むすび

「モーセは民のことばを【主】に告げた」（出 19 : 9）とある。私は、私なりに主のことばを告げたいと、強く願っている。それは、今日のコンテクストである。

『あなたがたはあらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」

私たちは今やすでに、イエス・キリストにあって、神の宝であり、祭司の王国であり、聖なる国民とされているのである。